

五箇地区むらづくり推進協議会

花桃園地整備事業 ー 休憩施設の設置ー
花桃イベント開催事業

五箇地区むらづくり推進協議会

1. 基本データ

- (1) 地区名 五箇地区
- (2) 地区人口 65人
(平成27年7月1日住民基本台帳)
- (3) 面積 146km²
- (4) 地区の沿革

五箇地区は、市街地から約8km東南の位置にあり、西は「日本百名山」の「荒島岳」、東は赤兎山と白山連邦、岐阜県に接し、面積は146km²と広大な林野を占める地域。上打波、下打波、東勝原、西勝原の4集落からなっている。

- (5) 実施主体

五箇地区むらづくり推進協議会



2. 現状と課題

かつての五箇地区は、林業が栄えるとともに、スキーやキャンプ、登山などのアウトドア・レジャーに、また、風光明媚な「刈込池」や「仏御前の滝」、九頭竜川の「魚止め」などを訪れる観光客が多く、民宿業（現在は1軒が営業）が盛んに行われ、一年を通じて賑わ

いの絶えない所であった。

しかし、相次ぐ災害やダム建設による移住、観光客ニーズの変化による観光業の低迷などから人口の流失と少子高齢化が進行し、それに伴い、小・中学校や郵便局、JAの支所が再編計画の中で順次廃止され、地域の活力は衰退していった。



現在は、JR勝原駅のある西勝原区を中心に、東勝原・上打波・下打波の4集落に34世帯65名が生活をしている。また、無雪期には、市街地から畑や山仕事に通う五箇地区出身者の姿も多く見られるとともに、神社では祭りが催されるなどもしている。



このような中、地区内では、むらづくり推進協議会が実施する「花いっぱい運動」により、JR勝原駅周辺を季節の花で飾り、五箇地区への訪問者を出迎えたり、近所の婦人によって30年ほど前から植樹された花桃並木が、春になると“桃源郷”として注目を集め、満開の季節には遠く中京や関西から観光客が訪れるまでになるなど、「豊かな自然を活かした交流」を目指して、地区住民が一体となり“ふるさと五箇”の活性化に向けて取り組んでいるところである。



【八幡神社下湧水地の再生 (H22)】



【花桃の若木保全 (H22)】

3. 事業の内容

平成22年度から3年間の「越前おおの地域づくり交付金事業」では、住民協働による故郷の環境保全と交流人口の増加による地域の賑わいづくりをテーマとし、雑草が生い茂り、埋もれかけた湧水地や不法投棄されたゴミに汚された用水路に階段や遊歩道を設け、来訪者が清流を楽しめる親水空間として再生した。さらに、“桃源郷”と表現される花桃並木を核に、地区全体に花が咲き誇る花木の里づくりにも取り組んだ。



【東勝原区広場サルスベリ植樹 (H23)】



雪囲い材料木棚



花桃若木雪囲い



花桃園地整備

【花桃植樹地保全管理 (H23)】



区民の協働活動

【西勝原区共有地の景観整備 (H24)】



花ショウブ園

【西勝原区共有地の景観整備 (H24)】

五箇公民館の北側、花桃並木に続く西勝原区の共有地には、地区住民や五箇地区に縁のある人たちによって植樹された花桃やツツジ、ヤマボウシのほか、花壇には季節の花が咲き誇り、来訪者が五箇の自然を楽しめる園地になっている。

特に、4月中旬からの桜、それに続いて花桃が満開を迎える5月上旬にかけては、大勢の見物人で賑わうことから、「越前おおの地域づくり交付金事業」を活用した環境整備を進めてきたところである。



早春の花桃園地



賑わう花桃並木

「結の故郷づくり交付金事業」では、この取り組みを継承し、園地の一層の充実と来訪者の利便性向上のため休憩施設（東屋）を設置する

ことにした。

また、平成27年度には、休憩施設（東屋）の完成にあわせて、花桃を地区内外に広く情報発信し、地区住民の連携と親睦を深めるとともに交流人口に増加による地域に賑わいを促進することにより、地区の活性化を図ることを目的とし、「五箇のお花見会」と銘うったイベントを開催することとした。

※花桃園地整備事業 — 休憩施設の設置 —

休憩施設（東屋）の設置にあたっては、予算の都合などから3年間をかけて完成することになった。

■ 休憩施設設置スケジュール

年度	工種
平成25年度	基礎工事
平成26年度	休憩施設外壁工事
平成27年度	休憩施設付帯工事

平成25年度には基礎工事を行った。



【花桃園地整備 (H25)】

平成26年度には、東屋の外壁工事を実施し、専門的な知識と技術が必要であることから業者に依頼したが、日頃、園地の手入れに苦勞をされている地区民が周辺の賑わいを創造する取組みが行われた。



【花桃園地整備 (H26)】



【花桃園地整備 (H26)】



青空ギャラリーを創作する地区住民の方々



青空ギャラリー（里山の生き物）

平成27年度には、東屋の屋根と外装付帯工事を実施し、専門的な知識と技術が必要であることから業者に依頼したが、花桃公園は、地区民がさまざまな花の手入れをしている花壇も整備され、地区を挙げて環境美化活動に取り組んでいる。



【花桃園地整備（H27）】



【花桃園地整備（H27）】



【花桃園地整備（H27）】
休憩施設（東屋）完成



地区民が手入れしている花壇

※花桃イベント開催事業

花桃が満開を迎えた4月26日(日)には、以前に開催していた「お花見茶屋」や前年度に試行的に取り組んだ「お花見会」イベントをグレードアップし、「五箇のお花見会」として五箇地区を挙げての花桃イベントを開催した。

満開となったハナモモの下、好天に恵まれた会場には、地区民をはじめ、大勢の花見客が来場された。

当日は朝から、地区住民をはじめ青年団体等の協力を得て、会場設営を行い、10時のオープニングから、簡易ステージでの多彩なイベントや、食のコーナー、物販コーナー、寄せ植え体験などを開催した。

また、地区住民の手作りの「ふるまい鍋」

のふるまいや、五箇地区に伝わる神子踊りが披露され、地区住民や五箇地区に縁のあるか
方々、観光客など大勢の方に楽しんでいただ
き、終日賑やかにイベントを開催することが
できた。



「五箇のお花見会」会場入り口



大勢の観光客で賑わう会場



地区住民等による会場設営作業



地区住民等が協力して、手作りの「ふるまい鍋」
の調理作業



五箇地区に伝わる神子踊りの披露

4. 事業の成果

近年、五箇地区の花桃並木は、テレビや新聞などで報道される機会が増えたことから、見物に訪れる人が増えている。保育園や老人施設等の園外活動、県外からの花見客などが散策の合間に一息入れる休憩処となり、また、地区住民が集い、訪問者と交流する拠点として活用されることが期待できる。

また、イベントの開催により、地区住民がさまざまな形で参加し、地区内の交流を深めたり、一体感を生み出す機会になるとともに、交流人口の増加により、地区の活性化になるものと期待される。

5. 今後の展望

花桃園地の整備が完了し、それを活用したイベントの開催は、地区住民をはじめ、五箇に縁のある方々にも、「五箇の良さ」を再認識することとなり、また、多くの来訪者を受け入れることで、地区の賑やかさを創造することができると確信が得られた。

今後も地区の“宝”である、花桃を核とした取組みを継続し、住民と来訪者が交流する機会や場を充実することで、そこから生じる賑わいが“ふるさと五箇”の活力となることが期待される。

また、併せて、公民館事業でも、寄せ植え体験講座や花桃園地を活用したガーデニング講座、花桃の種植え体験講座等に取り組み、参加者に自然に親んでもらうとともに、花桃や花桃園地への関心を高めてもらう機会を提供するなど、情報発信に努め、さらなる交流人口の増加による地域の活性化を図りたい。